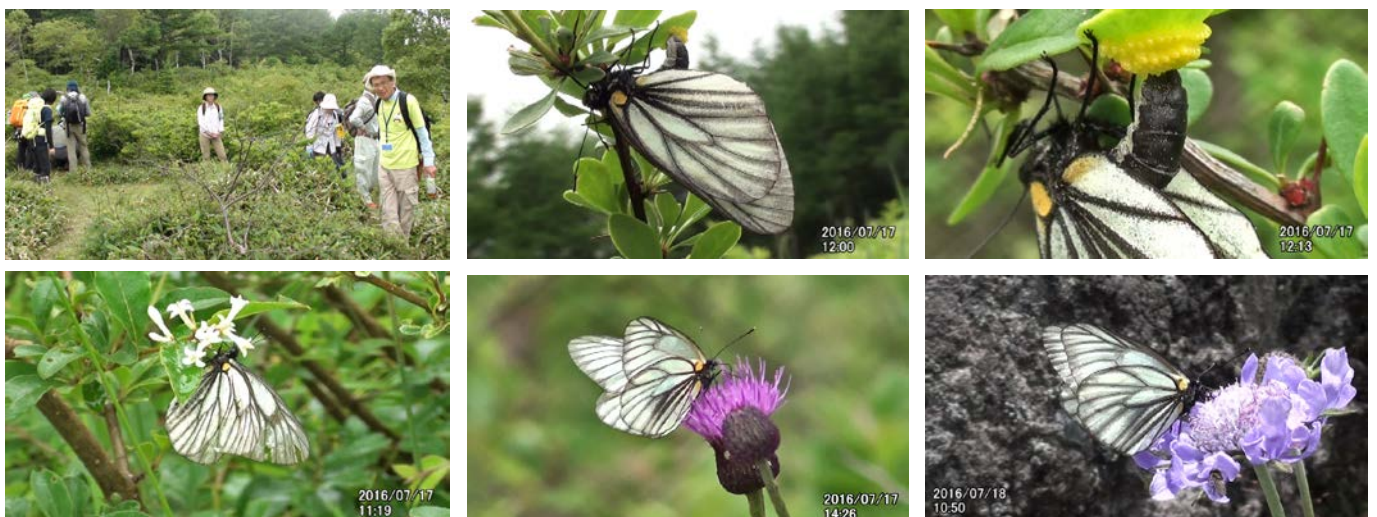


ミヤマシロチョウとの初の出会いは、1974年7月30日に長野県美ヶ原高原から九十九折りという下山道をクネクネと歩いてたどりついた三城牧場の広小場で果たしている。まだビデオカメラなどが普及していない頃の情景は記憶でしかたどれないが、膝ががくがくとなるような状態で降りてきた路傍の草むらを複数のミヤマシロチョウがフワフワとのどかに飛んでいた様子が思い出せる。当時は信州の生息地の多くで多産していて、集団で路面吸汁している光景などの記録

がいまではめったに見られない光景だとして Facebook などにアップされているが、1974年当時は何のためらいもなくネットインをしていて、そのときの採集個体を自作のポリエステル樹脂標本として残している。



2016年7月、すでに絶滅危惧Ⅱ類選定の保護対象となった本種について、保全活動を継続されている群馬県の保全団体との交流を企画。ヒメギフチョウの保全活動団体である「赤城姫を愛



する集まり」の松村さんにお世話していただき、群馬県の「高山蝶を守る会」の協力も得られ、2016 トヨタ環境活動助成プログラムのおかげで1泊2日の視察旅行を実現し、加古川の里山・ギフチョウ・ネットのメンバー5名で参加。7月17日にミヤマシロチョウの生息地を案内していただき、18日には午前中にアザミなどの花を訪れるミヤマシロチョウの撮影を楽しみ、目の前で産卵行動をとる個体などを観察した後、午後には小烏帽子岳への軽登山でミヤマシロチョウ、コヒョウモンモドキに加えて高山蝶のミヤマモンキチョウも観察できた。